

地域型キャリア教育実践モデルのプログラムユニット（例）

【座学（知識）系】

ユニット1 マクロ環境の理解（1）「日本の経済」（4～6時間程度）

【概要】日本経済の基本的な仕組みと動きを理解し、自分自身の学びとの関係性について考える

【学習目標】

- 日本経済に関する種々の情報から、様々な出来事の因果関係を推理し、将来像を描くことができる
- 自らが描いた日本経済の将来像に対して、自らの適切な対応を考えることができる

時限	テーマ	内容	評価指標	評価規準
1	経済成長とは	経済成長とはどういう現象かをひもときつつ、マクロ経済の基本的な仕組みを理解する	知識理解	マクロ経済の基本的な仕組みを理解している
2	日本の経済成長を振り返る	戦後の日本の経済発展の歴史をたどり、折々の経済政策とどのような関係があるかを考える	学習方法：因果関係の推理	日本経済の様々な出来事の因果関係を推理することができる
3				
4	日本経済の今後を考える	国の経済戦略を参照しつつ、日本経済が今後どのように進んでいくのかを議論する	学習方法：論理的な考察 協働：多様性の受容	今後の日本経済に関する情報を組み合わせて、将来像を論理的に構成することができる 自分と異なる他者の考えを受け入れ、それをもとに自らの考えを修正できる
5				
6	日本経済の今後と自分の学び	想定される日本経済の変化を踏まえて、自らの学びをどのようにすべきかを議論する	自己理解：自己の将来	自らを取り巻く環境変化を正確に捉えて、それに対して適切な行動を想定することができる

ユニット2 マクロ環境の理解（2）「地域の経済」（4～6時間程度）

【概要】宮城県の現状理解、宮城の経済の今後と自分の学び方について考える

【学習目標】

- 地域経済に関する種々の情報から、様々な出来事の因果関係を推理し、将来像を描くことができる
- 自らが描いた宮城・仙台の経済の将来像に対して、自らの適切な対応を考えることができる

時限	テーマ	内容	評価指標	評価規準
1	地域の経済	地域の経済がどのような要因と仕組みで構成されるか、基本的な枠組みを理解する	知識理解	地域経済の基本的な仕組みを理解している
2	宮城県の経済	宮城県の経済の状況を県の資料をもとに振り返り、それが宮城県が置かれた環境や、県の持つ資源とどのように関係しているかを考える	学習方法：因果関係の推理、 論理的な考察	宮城県経済の様々な出来事の因果関係を推理することができる
3				
4	仙台市の経済	仙台市の経済の状況を市の資料をもとに振り返り、宮城県の状況との違い、今後の発展性について議論する	学習方法：論理的な考察 協働：多様性の受容	地域経済に関する情報を組み合わせて、現状を適切に整理し、将来像を論理的に構成することができる 自分と異なる他者の考えを受け入れ、それをもとに自らの考えを修正できる
5				
6	地域の今後と自分の学び	想定される宮城・仙台の地域経済の変化を踏まえて、自らの学びをどのようにすべきかを議論する	自己理解：自己の将来	自らを取り巻く環境変化を正確に捉えて、それに対して適切な行動を想定することができる

ユニット3 マクロ環境の理解（3）「世界の経済」（4～6時間程度）

【概要】世界経済と自分との関係性の理解を深める

【学習目標】

- 貿易と為替を軸に世界経済の様々な出来事の因果関係を推理し、将来像を描くことができる
- 自らが描いた世界経済の将来像に対して、自らの適切な対応を考えることができる

時限	テーマ	内容	評価指標	評価規準
1	世界経済のしくみ	世界経済がどのような要因と仕組みで構成されるか、貿易と為替を軸に基本的な枠組みを理解する	知識理解	貿易と為替を軸にした世界経済の基本的な仕組みを理解している
2	日本とアメリカの経済	日本とアメリカの貿易と為替の関係の推移を示す資料と各種年表を組み合わせて、日米の経済がどのように影響しあってきたかを考察する	学習方法：因果関係の推理、論理的な考察	日米間の経済関係における様々な出来事の因果関係を推理することができる
3				
4	世界経済の今後を考える	今後の世界経済に影響を与える可能性の高い政治、社会、技術の変化をもとに、今後の世界経済の動きについて議論する	学習方法：論理的な考察 協働：多様性の受容	世界経済に関する情報を組み合わせて、現状を適切に整理し、将来像を論理的に構成することができる 自分と異なる他者の考えを受け入れ、それをもとに自らの考えを修正できる
5				
6	世界経済の今後と自分の学び	想定される世界経済の変化を踏まえて、自らの学びをどのようにすべきかを議論する	自己理解：自己の将来	自らを取り巻く環境変化を正確に捉えて、それに対して適切な行動を想定することができる

ユニット4 ケース学習「地域企業の取組」（4～8時間程度）

【概要】地域企業や地域の人たちの取組事例を知る、地域企業の将来像を描く

【学習目標】

- 地域企業の取り組みや社会の環境に関する情報を組み合わせて、現状を適切に整理し、将来像を論理的に構成することができる
- 自分と異なる他者の考えを受け入れ、それをもとに自らの考えを修正できる

時限	テーマ	内容	評価指標	評価規準
1	企業とはなにか	経済主体としての企業の存在意義と、利益を生み出す仕組みの基本を理解する	知識理解	企業の存在意義や、利益の本質を理解している
2	地域と企業	地域企業の経営判断に与える地理的・歴史的な文脈について、事例をひもときながら理解する	学習方法：因果関係の推理、論理的な考察	企業活動と地域の文脈の因果関係を推理することができる
3				
4	地域企業の問題解決	地域や日本全体の環境の変化とそれに対する地域企業の対応についてひもときながら、その折々に経営者がどのように考えて課題解決に取り組んできたか議論する	学習方法：論理的な考察 協働：多様性の受容	地域企業の取り組みや社会の環境に関する情報を組み合わせて、状況を適切に整理することができる 自分と異なる他者の考えを受け入れ、それをもとに自らの考えを修正できる
5				
6	地域企業の将来像と課題	地域企業を取り巻く環境変化と内部資源の組み合わせから適切な将来像を考え、そこに至る課題を抽出する	学習方法：論理的な考察 協働：多様性の受容	地域企業の取り組みや社会の環境に関する情報を組み合わせて、現状を適切に整理し、将来像を論理的に構成することができる 自分と異なる他者の考えを受け入れ、それをもとに自らの考えを修正できる
7				
8				

【調査系】

ユニット5 デスクリサーチ（5～7時間程度）

【概要】自分が探究したいテーマについて文献や統計情報を収集し活用する方法を学ぶ

【学習目標】

- デスクリサーチの意味や役割、基本的な手法を理解し、適切な一次情報を収集することができる
- 収集した情報をもとに、調査対象を適切に分析することができる

時限	テーマ	内容	評価指標	評価規準
1	デスクリサーチの基礎	デスクリサーチの基本的な考え方や論理構成上の意味、フィールドワークとの役割や手法の違いを理解する	知識理解	デスクリサーチの意味や役割、基本的な手法を理解している
2	テーマ設定	指定したテーマ群の中から、生徒自身が探求したいものを選ぶ	学習方法：情報収集	デスクリサーチに適した調査テーマを選択することができる
3	調査の実践	統計情報を中心とした一次情報についてインターネットを通じて収集し、収集した情報を解釈する	学習方法：情報収集	適切な一次情報を収集することができる 収集した情報を適切に解釈することができる
4				
5				
6	調査結果の検討	調査結果とその解釈について、論理的に正しいかを検討し、更に調査すべき事柄を抽出する	学習方法：分析	収集した情報をもとに、調査対象を適切に分析することができる
7				

ユニット6 フィールドワーク（6～8時間程度）

【概要】自分が探究したいテーマについて現地調査を通じて資料や情報を収集し活用する方法を学ぶ

【学習目標】

- フィールドワークの意味や役割、基本的な手法を理解し、現地でのみ得られる適切な資料や情報を収集することができる
- 収集した情報をもとに、調査対象を適切に分析することができる

時限	テーマ	内容	評価指標	評価規準
1	フィールドワークの基礎	フィールドワークの基本的な考え方や論理構成上の意味、具体的な手法を理解する	知識理解	フィールドワークの意味や役割、基本的な手法を理解している
2	テーマ設定	指定したテーマ群の中から、生徒自身が探求したいものを選ぶ	学習方法：情報収集	フィールドワークに適した調査テーマと手法を選択することができる
3	調査の実践	現地での観察、聞き取り、アンケート、資料収集といった調査を行い、収集した情報を解釈する	学習方法：情報収集	現地でのみ収集できる適切な情報を得ることができる 収集した情報を適切に解釈することができる
4				
5				
6				
7	調査結果の検討	調査結果とその解釈について、論理的に正しいかを検討し、更に調査すべき事柄を抽出する	学習方法：分析	収集した情報をもとに、調査対象を適切に分析することができる
8				

【座学（探究）系】

ユニット7 探究手法（4～12時間程度）

【概要】探究のプロセスを理解し、適切な課題と仮説を設定する

【学習目標】

- 探究的な学習の目的と手法を理解する
- 研究と実践のプロセスを理解する
- 研究課題と実践課題の違いを認識し適切な探究活動を設計できる

時限	テーマ	内容	評価指標	評価規準
1	探究と探究的な学習	探究と探究的な学習の違いを理解する 研究と実践の違いを理解する	学習方法：探究手法	探究と探究的な学習の違いを理解し、自らが取り組むことがイメージできる
2	研究の手法	研究のプロセスと、適切なりサーチクエスチョンの設定方法を理解する	学習方法：情報収集、分析	分析対象に対して自ら適切な視点を定め、適切な課題を設定することができる
3	仮説検証の手法	研究プロセスにおける仮説の設定とその検証の手法としての、実験・調査の概要と注意点を理解する ① 実験による検証 ② アンケート調査による検証 ③ インタビュー調査による検証	学習方法：情報収集、分析	視点を定めて必要な情報を収集するための調査の設計手法の要点を示すことができる
4	実践の手法	実践における課題・仮説の設定とその検証プロセスの概略を理解する	学習方法：情報収集、分析 協働：協働、当事者性	将来像と現状のギャップとして適切な課題を抽出し、細分化することができる 身の回りの課題に対して当事者意識を持った解決プロセスを示すことができる

ユニット8 課題解決思考（15～18時間程度）

【概要】地域の現状調査の結果をもとに地域の発展可能性を抽出する

【学習目標】

- 自らの視点を持って地域の現状を分析し適切な将来像を描くことができる
- 将来像と現状のギャップとしての課題を抽出し論理的に示すことができる
- 自ら当事者性を持って課題解決の方法を考えることができる
- 他者の意見を受け止め自らの考えを修正することができる
- 自分自身の学習プロセスを言語化できる

時限	テーマ	内容	評価指標	評価規準
1	チームビルディング	協同学習のためのチームを構築する	協働：信頼関係構築	チームにおける自らの役割を自発的に果たそうとしている
2	視点の設定	対象となる地域に対して、分析のための視点を定める	学習方法：分析	分析対象に対して自ら適切な視点を定めることができる
3	地域の現状理解	対象となる地域に対して、自分たちの視点に沿って必要な情報を収集し現状を記述する	学習方法：情報収集、分析	視点を定めて必要な情報を収集し、それをもとに適切に状況を分析できる
4				
5				
6				

時限	テーマ	内容	評価指標	評価規準
7	地域の将来像	対象となる地域に対して、自分たちの視点に沿って適切と思われる将来像を描く	学習方法：論理的な考察 協働：ブレインステアリング	地域に関する情報を組み合わせて、将来像を論理的に構成することができる 共通の目的に沿って、自らの意見を積極的に発信し、相互に修正することができる
8				
9	課題抽出	将来像と現状のギャップとしての課題を抽出し、細分化する	学習方法：課題抽出	将来像と現状のギャップとして適切な課題を抽出し、細分化することができる
10				
11	プレゼンテーション	地域の現状、将来像、課題についてプレゼンテーションし、他者のフィードバックを受ける	技能：プレゼンテーション 協働：多様性の受容	自分たちの伝えたいことを、相手に伝わるように構成し表現することができる 他者の意見を受け止め、自らの考えを修正することができる
12				
13	課題解決アクションの設計	地域の課題を解決するために、自らが取り組むことができるアクションを設計する	協働：協働、当事者性	互いの特徴を生かしてそれぞれが自発的に役割を果たすことができる 地域の課題に対して当事者意識を持った解決提案をすることができる
14				
15				
16	プレゼンテーション	地域の現状、将来像、課題、解決アクションについてプレゼンテーションし、他者のフィードバックを受ける	技能：プレゼンテーション 協働：多様性の受容	自分たちの伝えたいことを、相手に伝わるように構成し表現することができる 他者の意見を受け止め、自らの考えを修正することができる
17				
18	ふりかえり	一連の授業の内容をふりかえり、生徒自身が何をどのように学んできたかを言語化する	学習方法：メタ学習	自分自身の学習プロセスを適切に言語化することができる

以上